

# 鳥と楽しむまち我孫子



## 第9回 鳥と楽しむまち我孫子絵画コンテスト

～ 鳥とくらす未来in手賀沼 ～

日時 2013. 10. 5～8

場所 我孫子市民プラザ ギャラリー



### ●竹宵実行委員の募集

○竹灯籠は、放竹林の整備・伐採から生まれたものだ。

風の強い我孫子市では、蝋燭、LED照明などを併用しながら、手をかけてこそ生まれる自然の美しさを次の世代へも残したいという思いと、一人一人できる環境活動への参加を皆さんに呼び掛ける思いを込めている。

○作業場所：我孫子市久寺家・中央学院大学近くの「松下工房」

○作業日時：原則、毎週金曜日、日曜日 9時から11時30分まで

現在、他の曜日を希望する人も出てきたので、3名以上集まれば作業日を増やすことも考えている。

○連絡先：竹宵実行委員長 米澤外喜夫 (090-6503-2084)

### ●編集後記

住み良いまちづくり研究所は2004年に設立し、我孫子を住み良いまちにするため、自分の力できる身近な環境改善事項を取り上げその実現に向け、年間を通して活動しています。最近特に思うのは、一つ一つのプロジェクトに取り組むにあたり、関係者で議論し知恵を出し合えば、一人では思いつかないような発想がどんどん得られる事です。仲間を持つことの素晴らしさを感じながら編集を行いました。

また表紙題字の「住み良いまち」は、今号の発刊に併せ、40年以上書道に携わってきた当研究所スタッフの脇坂敦子の書により一新しました。(浜崎)

### <今号の主な記事>

2013 第9回鳥と楽しむまち我孫子絵画コンテストの特集記事

2013 竹宵inあびこ — 鎮魂竹宵/ライトダウン竹宵/あびこカッパまつり竹宵

「3.11東日本大震災以降のキャンドル募金報告」

「インクカートリッジリユース活動プロジェクト」

# 2013 第9回 鳥と楽しむまち我孫子絵画コンテスト

募集内容：「鳥とくらす未来in手賀沼」をテーマとした当団体の活動に沿った作品  
 (当団体キャラクター：バンくん・バン子ちゃん使用可)  
 応募規定：①作品主題の明記 ②サイズ：八つ切り 技法・ジャンルは自由  
 (画材、素材、絵画、漫画、イラストなど自由壁面展示が可能な作品に限る)  
 展 示：2013年10月5日～8日 あびこショッピングプラザ 3F市民プラザギャラリー  
 表 彰 式：2013年10月6日 (日) 13時～

各 賞：ワシントンD.C.近代美術研修賞、我孫子市長賞、我孫子市教育長賞、  
 我孫子市鳥の博物館賞、(公・財)山階鳥類研究所賞、川村学園女子大学賞、  
 LLPプロベグループ環境賞、我孫子ライオンズクラブ賞、アキミチカ賞、  
 銀座ACギャラリー賞、青木章審査委員長賞、我孫子医師会賞、ヴェイル賞、  
 我孫子市商工会長賞、飯田屋天子山店賞、かささぎ治療院賞、桜田建設賞、  
 白樺派のカレー賞、今井タクシー賞、我孫子市歯科医師会賞、中村組賞、  
 工房古老木来賞、浜崎企画賞

## ワシントン D.C. 近代美術研修受賞者

2013年美術研修賞受賞者の研修前の抱負

佐藤 マナ 様 (20歳)


美術研修でやり遂げたい事は二つあります。

一つは、スミソニアン博物館に収蔵されている膨大な絵画を鑑賞すること、ワシントンD.C.の街並み、建物や広告そして町行く人々の装いなどを十分に観察してきたい。

二つ目は、滞在期間中に行う作品作りの体験を精一杯楽しむことと、普段なら会う機会のない人々と制作過程での意見交換を、拙い英語ながらコミュニケーションが図れるよう真剣に取り組んできたいと考えています。



2013年美術研究賞受賞作品 題名：黄昏



表彰式



佐藤さんと作品

### 市民主催のコンテストに全国から応募 「鳥と楽しむまち 我孫子絵画コンテスト」

「NPO住み良いまちづくり研究所」(演習  
慶子代表)主催の「第9回 鳥と楽しむまち  
我孫子絵画コンテスト」の表彰式が10月6  
日、我孫子市民プラザのギャラリーで和や  
かに行われた。

絵画展は  
環境へのメッセージ  
から68歳までの23作品が  
入賞。この日賞状と副賞  
が授与された。大賞受賞  
者には副賞としてワシ  
ントンD.C.近代美術研修7  
日間の旅がプレゼントさ  
れる。

佐藤マナさん(川村学  
園女子大学2年)の作品  
「黄昏」は黄昏ときの星  
空の下、雄鶏がまあるい  
地球の上の時を告げる姿  
を描き上げた。近所で飼っ  
ている雄鶏が、なぜか夕  
方になると時を告げるの  
が気になってモデルにし  
たという。美術研修につ  
いては、「びっくりし  
る」

今度も北海道から九州  
まで150点近くの応募  
があった。作品は審査委  
員長の青木章さん(我孫  
子市副市長)と渡邊賢  
さん(市美術協会会長、  
中尾葉子さん(同副会長))  
による審査の結果、3歳

主なる賞の入賞者と作品  
名は以下の通り(敬称  
略)。(我孫子市長賞)伊  
藤匠希(花佐小5年)「手  
賀の風景」(同教育長賞)  
水上莉爽(白山中2年)  
「未来様へ」(同鳥の博  
物館賞)野口聖花(久寺  
家中1年)「我孫子の自  
然と共に生きる私達」  
(公財)山科鳥類研究所  
賞 櫻井見衣(遠開前新  
小)「森に住む鳥の主」  
(川村学園女子大学賞)  
菅井葉(同女子大3年)  
「人と鳥の住む町」  
他に最年少の保育園  
児・坂本穂花ちゃん、障  
害者福祉センター「絵画教  
室の松嶋聖子さんと堀田  
正さんらが入賞した。  
演習代表は「コンテス  
トを続け、この中から若  
い芸術家が育つことが夢  
です」と話した。(竹

「ちいき新聞」掲載記事の抜粋

## 3.11東日本大震災以降のキャンドル募金報告

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の際、当研究所では「東日本大震災復興支援募金」を実施しましたが、震災に遭われた方々のご苦労は並大抵ではありません。

日本人の粘り強さで、懸命に負けまいと頑張っておられる御姿を マスコミヤ、また直接拝見する機会を持ち、少しでもお役に立てればという思いで、現在も「キャンドル募金」という名称での参加型募金活動を継続しています。

その流れを下記に御報告させていただきます。

平成25年度の実績 10月14日現在のキャンドル募金累計額 1,463,309円

(内訳)

3月11日：あびこショッピングプラザにおける鎮魂竹宵の集い…123,073円

(陸前高田市復興お見舞い金)

7月13日：ライトダウン竹宵inあびこ…13,270円

(内、10,000円：我孫子市民を元気づける手賀沼の花火大会、3,270円：我孫子市社会福祉協議会へ寄付)

8月25日：竹宵inあびこカップまつり…27,084円(陸前高田市消防団への義援金)

参考

平成24年度のキャンドル募金累計額 1,299,882円

平成23年度のキャンドル募金累計額 1,068,685円

(詳細は、<http://sumiyoi.blog.fc2.com/blog-entry-4.html>をご参照ください)

## リユーズインクの回収と販売

### インクカートリッジリユース活動プロジェクト

インクカートリッジリユースプロジェクトは、「チャレンジ25」に参加しているLLP(有限責任事業組合)プロベグループの一員として、リユースカートリッジの回収と販売の輪を草の根運動で広げるという活動です。

私たちの活動の重要な使命は、次の2つです。

第1は、使用済みカートリッジを回収し、再使用、再利用を可能にすることです。

現在、家庭用コピー機のインクカートリッジは、状態さえ良ければ数回程度まで再使用出来ます。商品としてカートリッジをリユースすること、資源として扱うことでCO2削減に繋がることを皆様に伝え、広めていくという役割を担っています。

ヨーロッパではリユース率約50%の国もありますが、環境省【※1】の当面の目標は30%です。現状は、リユースに関して日本は後発組のため、10%さえも達成していません。

第2は、リユース商品を利用して頂くことです。回収→利用→回収→利用…と言った輪がつながって、はじめてリユースが成立するのです。

更に、購入して頂いた方のインクカートリッジにトラブルがあれば、即座に対応するという事です。私達が取り扱っているエコリカ社【※2】は、【※1】に立脚した観点から、リユース製品でありながら、純正品のインクに負けない品質のインクを開発しています。

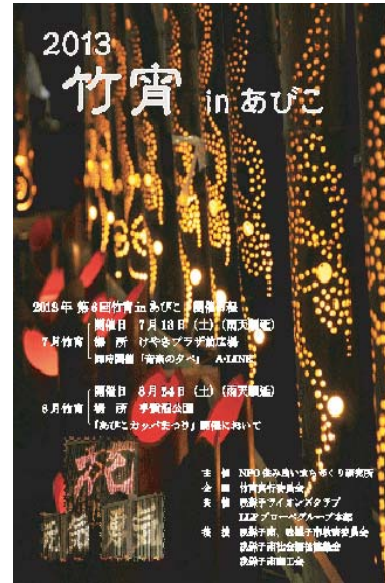
【※1】環境省は、平成19年3月に「環境物品等の調達の推進に関する基本方針の変更について」の中で、再生インクカートリッジが日本での奨励品の一つであることを示しています。

【※2】エコリカ社は、2009年にフジサンケイグループが主催する「第18回地球環境大賞」で「フジサンケイビジネスアイ賞」を受賞しました。



出典資料「環境物品等の調達の推進に関する基本方針の変更について(平成19年3月 環境省総合環境政策局環境経済課)」から抜粋

# 竹宵実行委員会



## 2013 鎮魂竹宵の開催

日時 2013. 3. 9~11  
場所 あびこショッピングプラザ前広場

- 『花』のオブジェ  
3・11の大震災後、東北の人々中心に被災に合った人々を励ますために作られた歌「花は咲く」からイメージして作成。その横には『元気』と『勇氣』の文字を応援フレーズとして飾った。
- 3・11鎮魂竹宵の集いの強力な応援団  
めばえ幼稚園、グランマンション絆、A-Link、ケサラ、エミューズ、グランベリ、高野山小学校、根戸小学校合唱部、白山中学校合唱部、めばえ幼稚園お母さんコーラス、我孫子市消防団有志、その他沢山の皆さんの応援を頂き『鎮魂竹宵の集い』は、今年の心に残るイベントの一つにすることができました。  
また、集まった義援金を当研究所のスタッフ(我孫子市消防団有志)に直接陸前高田市へ届けてもらいました。

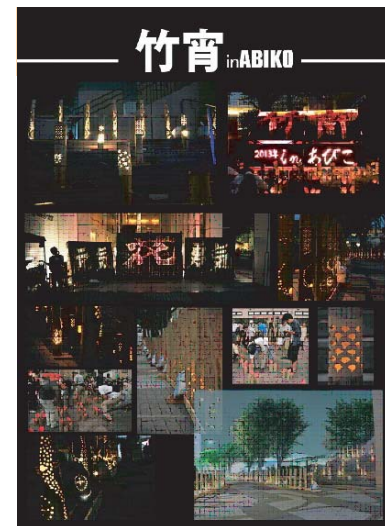


ゆるキャラの皆さん

審査員をお願いしました皆様よりご感想やご支援のお言葉を頂きましたのでご紹介をさせていただきます。  
ありがとうございました。

初めての実行委員長ということで、絵画に真剣に取り組んでいる応募者の姿勢に感動するとともに、画家としても大変勉強になりました。ひとこと言い添えますと、選にもれた作品にも、心の染み入る物も多かったという事です。審査の分かれ目は、当研究所が出したテーマに、どこまで注意を払って絵を描いたかということに尽きるかもしれません。応募者全員に今後もチャレンジして下さることを願って言います。何事も“ネバー ギブアップ”で頑張りましょう。

渡邊 実行委員長



## 2013 竹宵in あびこ

日時 2013. 7. 14~15  
場所 けやきプラザ前広場 (1)

- けやきプラザ前広場  
今年で6年めを迎えた竹宵ですが、当初、激しいビル風が吹き蠟燭が吹き消され、絵が台無しになることが度々ありました。現在では省エネへのメッセージを込めLED照明を利用し、小さな電源で灯りを取る工夫をしています。しかし、蠟燭の持つ幻想的な揺らめきも竹灯籠の魅力の一つで、全体の二割ほどは蠟燭の光を使用しています。
- 階段に飾り付けられた一本作品の竹灯籠  
3か月ほどかけてコツコツ仕上げた汗と涙のまさに結晶。これらを鑑賞した多くの観客から「1日で終わりにするのは勿体無い、是非明日も飾ってほしい」と強く要望され、急遽翌日も展示することにしました。家族連れや、写真マニアと思われる人たちが、さまざまな角度から撮影する姿にスタッフ一同感激。
- 学生ボランティア  
今年は、中央学院大学、二階堂高校の学生が沢山活躍してくれました。感謝!感謝!

今回、初めて審査委員長を仰せつかりました。生来、絵画の素養が無く、全国から150点近くという沢山の力作が集まり、その選考には大変苦勞をしましたが、渡辺実行委員長や我孫子美術家協会など、諸先輩のご協力を頂き、何とかお役目を果たすことができました。

今後は、全国でも有数の絵画展となるよう、さらなる努力をしてみたいと思いますので、皆様の一層のご支援、ご協力をお願いします。

青木 審査委員長 (我孫子市副市長)

今回は、「鳥とくらす未来in手賀沼」をテーマに、3歳から76歳までの幅広い年齢の方から150点近い応募があり、とても楽しく拝見させていただきました。作品の中には「鳥の秘密基地」や、神社の屋根に鳥が集まっている「願い」と題された絵など、人間との関わりの中で考えさせられる作品もありました。教育長賞「未来様へ」は、鳥とともに飛翔する女の子を描いた作品です。鳥と人間が楽しく共存できる未来であることを祈っています。

倉部 我孫子市教育長



## 2013竹宵in あびこカップまつり

日時 2013. 8. 24  
場所 手賀沼公園 (2)

- あびこカップまつり  
子どもから大人までの世代が参加できる、市民に親しまれる祭りを我孫子のシンボル「カップ」をテーマにまちの活性化を図っている。その趣旨が竹宵と同じ目線なので、当研究所も参画し、毎年バージョンアップした竹灯籠展示を行っています。
- 『竹宵』のオブジェ  
「竹宵」は実行委員会のスタッフで市内在住の画家が、「2013年inあびこ」の文字は書道歴40年の女性スタッフがデザインしたものである。このオブジェの光源は蛍光灯だが、光を乱反射させ、更に夜目にくっきりと浮かび上がるように蛍光塗料を塗るなどの工夫をしている。
- 他団体とのコラボ  
竹灯籠設置、並びに写真撮影では、中央学院大学生・カップまつり実行委員が大活躍してくれました。

鳥の博物館賞の野口碧花さんは良く鳥を観察しています。科学の一步目はものをよく観察することだと思います。聞きますと、おじいちゃん・おばあちゃんも碧花さんの作品を観に訪れ、家では目にしたことのない出来栄に「孫を見直した」と喜んでいらしたとのこと。こうした子どもたちから大人への発信力には大きなものがあります。鳥の博物館では、次代を担う子どもたちが鳥の博物館の門をくぐり、大きく羽ばたいてほしいと願っています。

木村 鳥の博物館長

本学の幼児教育学科3年生の菅井葉さんが川村学園女子大学学長賞を受賞し、とてもうれしく思います。菅井さんはゼミの先生に勧められてコンテストに応募したそうです。テーマは「鳥と人の住む町」。少女が地球を手に持ち、その上に鳥がいます。この町には人間と鳥たちが共に暮らしていて、よく見ると電車の乗客は鳥です。ビルの中では鳥たちが仕事をしています。夢のあるイラストを得意とする菅井さんは、将来は保育士として子どもたちに楽しい絵を描いてあげたいと話していました。

川村学園女子大学 学長

## 「ワシントンD.C.近代美術研修賞」設定の目的

2004年からスタートした絵画コンテストの内容充実のために、現在、アメリカワシントンD.C.で美術活動を行っている、当コンテスト協賛者アキミチカ氏（\*1）の協力を得、昨年度よりワシントンD.C.近代美術研修賞（以下「美術研修賞」）を設けるに至りました。

今後、受賞者がこの海外研修で視野を広げ、研修の体験を契機とし、芸術家、もしくは国際的に活躍する仕事を目指し、我孫子市の新しい時代の担い手、または、当コンテストの理解者となる人物へと成長することを願っております。

## 「ワシントンD.C.近代美術研修賞」昨年の紹介

2012年賞美術受賞者の研修後の感想

市村 美穂 様（当時13歳）

今回ワシントンD.C.滞在を通し、日本で体感できないことを多く感じる事が出来てとても良い経験になりました。今後この経験を生かし、更に考え方を広げたいと思っています。

また次回渡米する機会に恵まれたら、英語力を付けるためにしっかりと勉強していきたいと思えます。



2012年美術研究賞受賞作品 題名：鳥の輪

## ワシントンD.C.近代美術研修カリキュラム（参考 昨年の研修スケジュール）

宿泊先：アナバプロジェクトレジデンス（メリーランド州ベセスダ）

- 3月25日（月）：ダラス空港到着、アナバプロジェクト案内
- 3月26日（火）：アナバスタジオ タイルペイント体験、ベセスダ周辺、ケンウッド桜並木散策
- 3月27日（水）：スミソニアン博物館等の見学
- 3月28日（木）：ストーンランチ美術学校訪問、タイル焼き・シルクスクリーン一日体験、
- 3月29日（金）：スミソニアン航空宇宙博物館、コルコラン美術館、フィリップスコレクション、コルコラン美術大学訪問
- 3月30日（土）：国立動物園、Dumbarton Oaks Garden見学
- 3月31日（日）：終日free
- 4月1日（月）：ダラス空港出発

## 過去の作品紹介



【2008年】

作品賞：住み良いまちづくり大賞

作者名：桜井恵子（さくらい けいこ）

地域：東京都

年齢：女 30才

タイトル：『福よ 来い(フクロウのくる街)』

批評：福をもたらすフクロウの羽や身体を新聞紙の再利用で、見事な絵にしてくださったアイデアに審査員一同大喜び！今年と来年、我孫子市の鳥の博物館では、我孫子で育ったフクロウを記念するエコバック・エコマグカップキャンペーンを行っているタイミングの良さも手伝って、文句なしの大賞でした。



【2009年】

作品賞：第一席 住み良いまちづくり大賞

作者名：武藤洋子

地域：埼玉県

年齢：女 38才

批評：非常に繊細な筆使いで、風景に登場させる人物や木、鳥などを丁寧に描いています。箒で公園を掃き清める家族に「僕たちの住む場所をきれいにしてくれて有難う」と沢山の種類のとりたちがさえずっています。今年のテーマは『自然にやさしい鳥との暮らし』でしたが、まさにぴったりの絵画だというのが審査員の一致した意見でした。



【2010年】

作品賞：第一席

住み良いまちづくり大賞

作者名：中西伸治

(なかにし しんじ)

地域：滋賀県

年齢：男 70才

タイトル：『ふるさとのある風景』

批評：“幼き日赤とんぼや小鳥たちが夕日に映える中に君と僕がいた”そんな美しいふるさが当たり前となるような暮らしを未来に取り戻したいという願望がよく出ています。



【2011年】

作品賞：第一席 住み良いまちづくり

大賞

作者名：高橋政史

(たかはしまさし)

地域：東京都

年齢：男性 63才

タイトル：『楽しい鳥たちに心なごむ人々』

批評：見ている人がおもしろい心なごむ優しいタッチの絵画ですが、図の中心に地球が描かれていて全世界を表している所が洒落ています。

(\*1) AKIMICHKA-アキミチカ (Akemi Maegawa)

現在ワシントンD.C.在住

Corcoran College of Art and Design (コーコラン美術大学) 美術科学士課程修了

Cranbrook Academy of Art (克蘭ブルックアカデミーオブアート、ミシガン州)

美術セラミック科修士課程終了

ワシントンD.C.コーコラン美術大学セラミック科講師

主にセラミックと生地を使った造形、インストレーションを主にした作品を制作アナバプロジェクトディレクターとして、ワシントンD.C.の芸術関連活動に積極的に参画

アナバプロジェクトギャラリー

「Invisible Inc.」(2008年、Irvine Contemporary)

「Hybrid Forms」(2010年、Academy Art Museum)

「Rising Dust」(2013年、Carroll Square Gallery)など個展、グループ展多数

